

光星 4強へ打撃に磨き

練習再開、あす土浦日大戦

第105回全国高校野球選手権で8強入りした八戸学院光星は17日、茨城代表・土浦日大との準備練習を再開した。

練習再開は雨天が予想され、午前10時35分開始予定。八戸学院光星は17日、茨城代表・土浦日大との準備練習を再開した。

この日の練習は雨天が見込まれるとし、京都府亀岡市の室内練習場で午前11時から約2時間、非公開で実施。フリー打撃に大半の時間を割いた。

練習後、準々決勝に向けて仲井監督は「守備では5点以内に抑え、打撃では土浦日大のハイレベルな3投手から5点以上取り、4強入りを目指す」、中澤恒主将は「相手は（3回戦で）6点差を逆転した粘り強いチーム。甘いボールを逃さず、接戦をものにしたい」と意気込んだ。

土浦日大は5年ぶり5回目の出場。1回戦は上田西（長野）を延長十回タイブレークの末に8-3で破り、37年ぶりの勝利を挙げた。2回戦は九州国際大付（福岡）を3-0、3回戦は専大松戸（千葉）を10-6で下した。3試合で34安打を放ち、チーム打率は3割1分1厘。9盗塁と足を絡めた攻撃で得点を狙う。中でも2番太刀川、3番後藤、4番香取が当たっている。

投手陣はいずれも継投で勝ち上がった。最速140キロ超の直球と5種類の変化球を操る主戦の左腕藤本は17回を失点3、11奪三振、四死球1と安定感がある。右腕小森も最速149キロと力は十分。八学光星は膝下のボールの見極めを徹底し、準優勝した2012年以来11年ぶりの4強入りを果たしたい。（本田海輝、棟方好華）

多い背番号1の高橋も、選手層の厚い大阪代表の強力打線を力でねじ伏せた。

東北勢として初めて甲子園大会を制した昨夏から、3季連続での8強入りとなる。昨夏も全5試合で先発マスクをかぶった尾形は「今日のような試合ができれば、自分たちは強い。あと3回、試合できると思うと楽しみ」。大きな関門を突破し、史上7校目の2連覇への道筋をほっきりと思

力にさらに磨きをかけようと、選手たちがフリー打撃などに汗を流した。八学光星は文星芸大付（栃木）との3回戦を6-3で制した。初回に藤原の左前2点適時打などで4点を奪って試合の主導権を握ると、四、五回にも効率よく加点。投げたは岡本、洗平の2年生左腕の継投で反撃をしのぎ、2019年以来4年ぶりのベスト8進出を果たした。

「どうしても八学光星で野球がやりたい」と親を説得。「青森に行ったらきり、戻ってこれないかも。正一塁手。中学時代、

「どうしても八学光星で野球がやりたい」と親を説得。「青森に行ったらきり、戻ってこれないかも。正一塁手。中学時代、

光星
甲子園だより

新城 雄麻 内野手（3年）



「どうしても八学光星で野球がやりたい」と親を説得。「青森に行ったらきり、戻ってこれないかも。正一塁手。中学時代、

家族のため奮起誓う

「どうしても八学光星で野球がやりたい」と親を説得。「青森に行ったらきり、戻ってこれないかも。正一塁手。中学時代、